

2024 年度報告書

Memu Open Research Campus Project

趣旨

地域の多様性を資源として捉えることが今後の社会に強く求められている。このためには、ある特定の地域に研究者が集まり、その土地固有の資源を再読し、理解し、生まれてくる多様な情報を資源化し、共有可能な形に再編成する活動が求められている。このような研究活動には、母体となる場所が必要となると考えられるが、それはサテライトオフィスのような閉じた空間ではなく、広く地域に開かれたオープンキャンパスであることが求められると仮説を立てている。しかしながら、研究と社会が交わり偶発的創造性を得る機会をナビゲートする場所のあり方、そのようなオープンキャンパスのソフトとハード双方の統合的な管理手法などは既往事例がなく、新しいモデルを示していく必要がある。

これまでにプロジェクトメンバーは、多様な研究者が中長期滞在を行う「Research Retreat」の仕組みをつくり、またキャンパスの施設管理（ファシリティマネジメント）を応用したオープンキャンパスのマネジメントの仕組みづくりを検証してきた。2024 年度はこれらの仮説立てられた仕組みを実際に社会実装し、社会に開けた Open Research Campus の社会展開性を検証するとともに、マネジメントのデジタル化を推進することで、より汎用性のあるモデルを検証する。

実施方法

- (1) Research Retreat Program を通した Open Research Campus の実施
- (2) キャンパス内の研究活動と管理を担う人材開発。
- (3) 研究者が偶発的創造性を得るための機会をつくるキャンパス環境整備
- (4) マネジメント手法のデジタル化
- (5) Open Research Campus 運用手法の報告書としてのまとめ

計画（日程）

2024 年 4 月 「Research Retreat」公募プログラムの公開

2024 年 5 月 順次キャンパス環境整備の実施と検証を進める

2024 年 8 月 中間検証会

2025 年 3 月 Open Research Campus の社会実装を方法論として総括、展開可能性の検証

プロジェクトメンバー一覧

名前	職名	所属
森下 有	代表理事	一般社団法人資源再読機構
小澤 巧太郎	理事	一般社団法人資源再読機構

2024 年度成果報告

研究施設環境整備

2024 年度に以下の研究施設環境整備を実施、研究キャンパスとして、1：中長期滞在が可能となるための整備、2：多様な研究分野が集えるためのフィールドの整備を実施、動物飼育を介した研究、農作物系の研究、植生研究を想定した機能改善を実施した。

1：実験住宅棟（メーメ）の環境整備

- 給湯暖房設備の故障を受け、全交換、冬季のオペレーションを可能な状態にした
- 12月、1月と全稼働し利用可能性の担保の確認を実施した
- 上記を持って、既存の実験住宅7棟のうち、3棟が問題なく中長期滞在可能である状態に整備され、利用が開始された。

2：実習滞在棟（カンファレンス棟）の環境整備

- 夏季の利用促進に向けた網戸の設置と換気の調整を実施、故障した暖房機器の交換等のメンテナンス
- 未利用であった2階部分を利用可能であるように法令遵守のための改修工事を実施
- 中長期滞在に向けた洗濯設備の導入

3：厩舎棟の環境整備

- 利用が途絶えた厩舎をワークショップ（木工、金工、建材実験、土実験、植生実験）と倉庫として活用するための準備を開始、2025年度に危険とされている現利用建物から移動するための準備を実施

4：農作物栽培環境整備

- 地域で馬との共に生きることについて探求されている蜷川さんに依頼し、これまで未利用であった土地を馬耕を実施し、開墾、農作物の栽培実験に適した土地に改善した。
- <https://memu-orc.com/news/uma-to-kurasu>

5：植生環境整備

- 長期間放置されていた植生環境の整備に着手
- 荒廃し崩落の危機と危険にあった箇所の手入れと植樹による地盤改良の取り組み
- 落下の危険性のある枝の撤去、電線にかかっていた枝の撤去、立ち枯れした樹木の撤去

- 上記によりこれまで危険のため未利用であったキャンパス内の土地を、研究や実験などに活用できる区域へと改善した。
- キャンパスの植生、土地をより理解するためのワークショップの開催（研究者と地域の中高生参加）

6：キャンパス内にて動物を飼育する環境整備

- 鶏小屋の敷設（2棟）および、動物を介したキャンパス内の資源循環実験の開始
- 既存の馬柵の手入れによる家畜受け入れの物理的準備（2025年度に向けた整備）

7：デジタルキャンパス環境整備

- IoTの導入推進（鍵管理、温湿度管理、灯油利用量把握）を実施、キャンパスの見える化と効率化
- デジタルFMのためのオンラインプラットフォーム選択と検証を行い、デジタルキャンパスの構築を推進、仮運用を開始した。クラウドデータ管理、チームコミュニケーションツール、IoT、パブリックリレーションの連携。（2024年度に検証と運用開始、2025年度にモデル化）

研究調査

Open Campusにおける「Research Retreat」滞在者の受け入れ実績

1. Ab Rogers（建築、デザイン、クリエイティブディレクター）

Francesca Barltoli（キュレーター、リサーチャー）

「The Third Carer: Creating a holistic caring environment through combining neuro-architecture and traditional Indigenous knowledge」

2. 岩田渉（サウンドアーティスト）

「季節をめぐる土地と文化の音：鹿の音、神社の音」

「環境音を取り入れる建築の施工実験」

3. 稲垣真也（パリ在住パン職人）

「十勝における小麦の可能性を生産者と再読する」「天然酵母の文化と持続性」

4. Noemi Hernandez + Carlos Talledos（メキシコ伝統料理伝導者、伝統料理人）

「土地に根ざす食のあり方を共に作り、共に食べることの探求」

5. Fred Flitz（音の研究家）、Kazuyuki Matsumura（ZAK）（サウンドエンジニア）

地域の人と森の関係性を再読する研究映像「Rereading Forest」に音楽を制作し、自然音と映像が伝える人への情緒の可能性を探求

オープンキャンパスの実施

鹿を触る

2024年9月29日 [日]

地域のボーイスカウトに参加している小中学生と一緒に鹿の前脚を捌きました。最初は「こわい」と声をもらした子も、実際に触れることにより筋膜と筋肉の関係、腱の動き方を知り、自分自身の身体との近似性を感じ、いつしか「おいしそう」という声に変わっていました。食育と生態の学び、構造や力学のヒント、またものづくりがどのように交差し、また知が専門化していくのかを考え続けます。



土地を食する/Grounding Food

2024年11月2日 [土] ~3日 [日]

メキシコからの Research Retreat 滞在者による、地域の方々を招き、一緒に食のための場所を作り、共食することを試す取り組みを実施。今日の日本における、地域で共有する食のあり方について探求した。この取り組みを通して、地域に開けたキャンパス、「オープン・キャンパス」が固有の地域においてどのような役割を担うべきか議論し、研究と交差する地域知について考えました。これをきっかけに、地域の生産者と高校生とともに地域資源を議論する「オープン・キャンパス」の日を設け始め、キャンパスの連続的な取り組みとして継続中です。



詳細報告：https://scrapbox.io/memuearthlab/Grounding_Food

活動広報

キャンパスのウェブサイト制作、運用を開始

<https://memu-orc.com/>



展示：「_____を再読する」

札幌の SCARTS にてキャンパスで実施されている研究の紹介展示を開催

2024.12.10 (Tues)～12.14 (Sat)

会場：札幌市民交流プラザ 2F SCARTS スタジオ（札幌市中央区北1条西1丁目）

主催：UTokyo Ushioda Memu Earth Lab（北海道広尾郡大樹町：Memu Open Research Campus 内）

10:00～19:00（10日12時開始 / opens at Noon on the first day）



[https://memu-orc.com/news/\(re\)reading-in-sapporo](https://memu-orc.com/news/(re)reading-in-sapporo)

詳細報告：[https://scrapbox.io/memuearthlab/\(Re\)reading](https://scrapbox.io/memuearthlab/(Re)reading)

展示：「東京を再読する」

2025年2月22日 [土] ～24日 [月・休] 各日 10:00～17:00

会場：仲町の家（東京都足立区千住仲町 29-1）

主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

* 本企画は「アートアクセスあだち 音まち千住の縁 拠点形成事業 パイロットプログラム」の一環で実施しています。

「東京を再読する」では、memu earth lab の森下有さんと、東京の水辺のリサーチから作品を制作してきたアーティストの齋藤彰英さんとともに、東京で「再読*」を試みる可能性や、わたしたちが生活のなかで探求に取り組むきっかけについて話し合ってきました。この3日間では、仲町の家を対象に実験的に行った「再読」の試みやプロセスを、ものの対比や映像、トークによって紹介する場をひらきます。東京という場所で「再読」を実践する可能性は何か。来ていただいたみなさんとともに、考えたいと思います。



詳細報告：

https://scrapbox.io/memuearthlab/Rereading_Tokyo_%2F_%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%82%92%E5%86%8D%E8%A%AD%E3%81%99%E3%82%8B

予算執行報告

予算は、当法人の会計決算が12月であるため、2024年4月～12月、2025年1月～3月までの2期に分割して執行した。

第1期：2024年4月～12月

項目	内訳	数量	金額（千円）	備考
謝金		0	0	
人件費		0	0	
交通費		0	0	
資料・印刷費	資料・カンファレンス資料等印刷	1	100	
会議経費		0	0	
通信・運搬費	インターネット	1	525	
委託費（外部委託）	キャンパスの活動の実施と地域連携	1	4,950	
	研究施設運用管理	1	3,450	
	キャンパス・マネジメント	1	4,950	
	活動広報費（Webの作成と運営）	1	1,500	11月完成
	調査等研究業務委託費	1	2,250	
	研究施設環境整備費（中長期計画による）	1	13,875	
消耗品費		0	0	
その他		0	0	
合計			31,600	

第2期：2025年1月～3月

項目	内訳	数量	金額（千円）	備考
謝金		0	0	
人件費		0	0	
交通費		0	0	
資料・印刷費	カンファレンス資料等印刷	1	0	
会議経費		0	0	
通信・運搬費	インターネット	1	175	
委託費（外部委託）	キャンパスの活動の実施と地域連携	1	1,650	
	研究施設運用管理	1	1,150	
	キャンパス・マネジメント	1	1,650	
	活動広報費（Webの作成と運営）	1	0	
	調査等研究業務委託費	1	750	
	研究施設環境整備費（中長期計画による）	1	5,125	
消耗品費		0	0	
その他		0	0	
合計			10,500	

総計 ¥42,100,000 を執行致しました